

# 整備機器

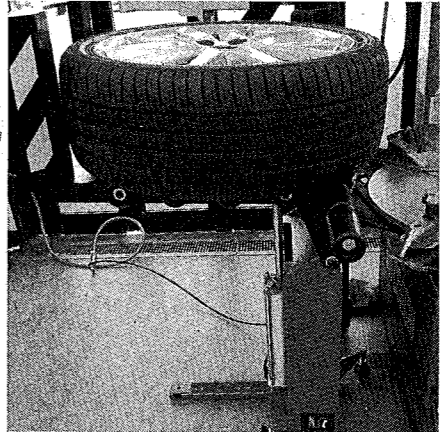
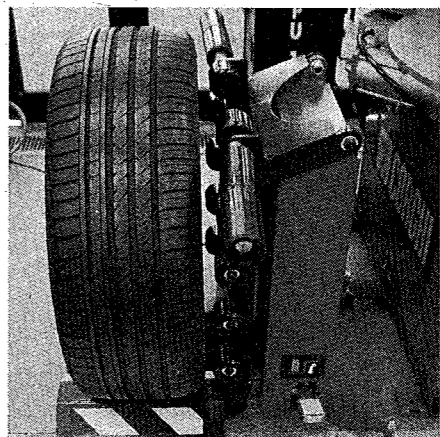
## 新商品

### 東洋精器工業(株)

#### 汎用タイヤリフト「SR-66」

# 作業の効率化と省力化に寄与

東洋精器工業株式会社(兵庫県宝塚市、阿瀬正浩社長)では、このような現場のニーズにタイムリーに対応するため、新たな構想に基づき製品ラインアップを行っているさなかだ。



④リフト本体に転がしてセット  
⑤頂上でタイヤは水平状態に

新型コロナウイルスの感染拡大によりさまざまなところへ影響が出ている。企業でテレワークへのシフトが進み、それにとまないECを通じての商品購入が増加。生活者の消費行動にも大きな変化が生じている。輸送物流業界では荷物の受発注が急増し配送トラックの稼働が増加する一方で、トラックドライバーは慢性的な人手不足の状況が続く。このような状況を背景として、輸送業界では車両管理・メンテナンスにかかる時間や人員をいかに減らすかというところに注力し取り組んでいる。それをタイヤ整備作業の現場で言い換えると、効率化(イコール、作業時間の短縮)と、省力化・軽労化(イコール、省人化)へのニーズとなる。それへの取り組みこそ喫緊の課題だ。

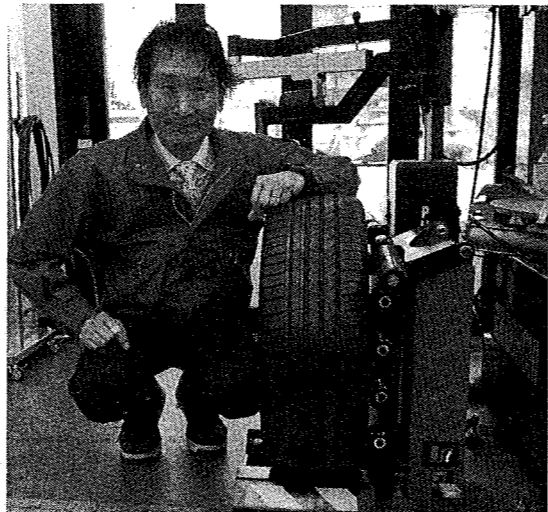
その同社はこのほど、作業の効率化と省力化・軽労化に寄与する新製品を上市した。汎用タイヤリフト「SR-66」がそれだ。販売企画部製品・技術部門課長代理の森本祐二さんが取材に対応してくれた。

一般的なタイヤチェンジャーを使用し作業するときに、作業者に大きな負担がかかるのが、ホイールが付いたままのタイヤをターンテーブルにセッティングする場面だ。ホイールに爪をチャッキングさせる段取りで、作業者は足を踏ん張りながら腰を入れ腕に力を入れてタイヤを持ち抱える。多くの作業者が腰痛に悩むのは、このような作業を毎日、断続で行うからだ。職業病の要因と指摘される。

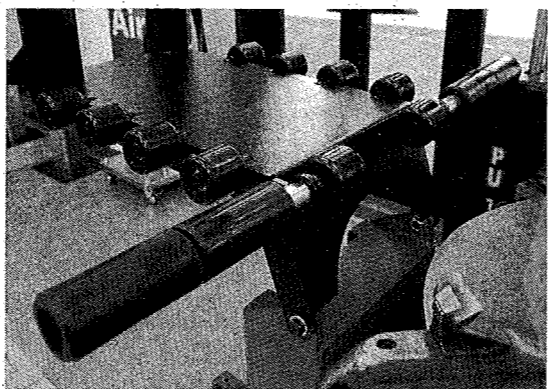
「最近ではリフトアップ機能を標準装着するタイヤチェンジャーや、その機器専用の動力源はエアの用い製作されたオプション品のタイヤリフトも出回り始めています。それでもタイヤリフトが不安定になること無くすぐに使用できることから、単独で供給エアーが接続できれば複数のチェンジャーで兼用することも可能。」

森本さんは「SR-66」はリフト高をテーブル高より50ミリ以上高く設計しています」と指し示す。この高さがある。それは即ち、タイヤを水平にリフトアップした時点でのリフト揚程高が、チェンジャーのターンテーブルよりも高くなるという点だ。

また自社製品以外にも、流通しているほとんどの製品がリフト高以下という点も設計段階で確認した。従って「SR-66」は汎用性に優れ、ほとんどのタイヤチェンジャーにペアリングすることが可能だ。



森本祐二さんとタイヤリフト「SR-66」



④リフト高をタイヤチェンジャーのターンテーブルよりも高く設定してある点が「ミン」。頂上から横へとタイヤをスライドするだけでセット完了。⑤操作は足元のペダルを踏むのみ。作業性の向上と軽労化を実現した。

「リフト高が高い位置にあるので、リフトアップした後タイヤをさらに持ち上げるといった作業が不要となり、力を入れなくてもその高さから横へスライドさせターンテーブルへと降ろすことができるようになります。そう解説する。開発にあたっては、同社の旧モデルも含めたタイヤチェンジャー「PITE(ピット)シリーズ」などを丹念に調査したそうだ。たとえば「AHELETER II(アスリート)」のターンテーブル高はリフト高より50ミリ程度低い。「GLEシリーズ」のそれは70ミリ、100ミリという具合に。テーブル高より、タイヤを水平にリフトアップした時点でのリフト揚程高が、チェンジャーのターンテーブルよりも高くなるという点だ。

また自社製品以外にも、流通しているほとんどの製品がリフト高以下という点も設計段階で確認した。従って「SR-66」は汎用性に優れ、ほとんどのタイヤチェンジャーにペアリングすることが可能だ。

(横野 正義)

後付けのタイヤチェンジャー用リフト